

② シノドス（世界代表司教会議）にむけて

今回は東京教区シノドス担当の小西神父さまに特別に寄稿いただきました。

* * *

シノドス性について その一

瀬田教会主任司祭・小西広志神父

昨年6月に大司教様からこの務めを任命されて、いろいろと考えることたくさんです。考えるだけじゃダメで、出かけて行っているいろいろな小教区共同体の様子をうかがう必要もあるのですが、なにせ、寒いですし、オミクロンということで、今は沈黙考に努めております。

教皇さまが「シノドス性」についてハッキリとお話したのは今から「年ほど前のことでした。しかし、その前から国際神学委員会では「シノドス性」に関する二つの研究をして、教皇さまに提出していました。教会が備えている「シノドス性」という特性について簡単にお話しするのは難しいです。さらには、その「シノドス性」に基づく「シノドス的」

教会についてお話しするのはもつと難しいです。実は、誰も「シノドス的」教会がどういった教会になるのかは分かっていません。教皇さまだつて分からないのです。ただ、教会がそもそも備えている「シノドス性」という美しさに従えば、きつと教会の本当の姿はこのようになるだろうという希望といたしましょうか、ヴィジョンがあるのです。

社会は袋小路に入ってしまった。民主主義は行き詰まりました。施政者たちによる権力の私物化にわたしたちの社会は疲れました。経済も行き詰まりました。新自由主義経済という名のもとに格差が広がり、貧困が拡大しつつあります。もしかしたら、教会も行き詰まっているかもしれません。教皇さまが来日したのは三年前ですけど、あれから教会は何も変わっていませんし、教会が社会全体に何かを発信することはなくなっていました。

それに加えて、この新型コロナです。教会に集いたくても集えない日々が続いています。もはや、かつてのような小教

区共同体には戻れないかもしれません。そんな中で、「シノドス性」という新しい言葉は、わたしたちに新しい視点を与えてくれるように思っています。

「シノドス」とはギリシア語に由来する言葉です。「シン」は「共に」を意味します。「オドス」は「道」を指します。ですから「シノドス」とは「共に歩む」とを意味するのです。最初に申し上げました教皇さまが「シノドス性」という言葉を初めて使った演説で、教皇さまは古代の教父の言葉を用いながらこんな感じでおっしゃいました。「教会とシノドスとはほぼ同義語です」。教会は共に歩むものです。もちろん、人間的な側面として機構や序列というものは存在しますが、そもそも教会とは「歩む」ものなのです。どうぞ、「教会とはシノドスとはほぼ同義語です」という表現を心に留めて、覚えてください。

ところで、シノドスのことが教区の多くの皆さんに伝わっていているという実感を受けます。ありがたいなと思いますが、「あれれ？違うんだけどな」と首を

ヒネリたくなるご理解もあるのは残念です。そのひとつに、「シノドス性」とは従来の聖職者中心主義の教会からの脱却であるという理解です。この理解は、残念ですが稚拙であると言わざるを得ません。「共に歩む」教会ですが、聖職者を否定するのではないのです。

ガクタン被選司教さまを仙台教区にお送りすることに、皆さまは誇りをもってください。そして新司教さまのためにお祈りください。まさに、ガクタン被選司教さまは「共に歩む」教会を造り上げるために、みちのくの地へとゆかれるのです。そのためには新司教さまご自身「共に歩む」司教とならなければなりません。これは大変なことです。皆さんのお祈りなしには、この任務は果たせないでしょう。

せつかくのチャンスですから、「共に歩む」教会について理解を深めてみませんか。

* * *

小西広志神父さまをお招きして勉強会を企画しています。どうぞお楽しみに。